



## 7 東部地区（水産）

### （1）現状と課題

圏域の海面漁業は、漁獲量の大半を占める沖合底びき網漁業や大中型まき網漁業などの沖合漁業のほか、漁獲金額の約半数を占める定置網漁業や釣漁業等の沿岸漁業など、様々な漁業種類が営まれています。しかしながら大部分の漁業種類では、資源の減少、就業者の高齢化と担い手不足、魚価の低迷、燃油の高騰など複合的な要因により、厳しい漁業経営を余儀なくされています。

これらの状況を直ちに改善することは困難ですが、漁労経費の圧縮に加え、地域の特性を活かした漁獲物の高品質化、流通改善および低利用魚介類の有効利用などによる魚価向上対策や、異なる漁業種類を組み合わせた経営の複合化による水揚げ金額の増加対策により、漁業経営の安定化を図る必要があります。

一方、圏域の内水面漁業は、ラムサール条約に登録された中海・宍道湖のほか、神戸川や神西湖においても環境悪化によるアユやシジミ（ヤマトシジミ）の資源量の減少が続いており、これら有用水産資源の回復や有効活用に向けた取組みが必要です。

### （2）重点的取組の展開方向

#### ①水産物流通の改善と新たな加工形態の開発

漁獲物の高品質化や流通改善など、消費地ニーズに合致した商品づくりのモデル事例である「美保関産活けメさわら」や「大社縁結びブリ」などの取組みをほかの魚種や漁業種類に応用し、圏域全体で売れる水産物づくりを推進し、魚価の向上による漁業経営の安定化を目指します。

これらに加えて、低未利用で価格が低い魚介類の価格向上を図るため、加工業者や漁業者等と連携した産地での一次加工や新しい加工品の開発にかかる取組みを推進します。

#### ②基幹漁業の構造改革

経営の柱となる漁業種類に加えて、新たな漁業種類に取り組むことで、水揚げ金額の増加を図り、漁業経営の安定化を目指します。

特に、圏域の基幹漁業であり、時化の多い冬期に休漁する定置網漁業においては、イワガキ養殖や鮮魚直販事業などのこれまでの取組みの充実に加えて、冬期に操業可能なワカメ養殖等の新規漁業種類の経営開始に必要な取組みを推進します。

#### ③地域の実情にあった担い手づくり

意欲的な担い手を重点的に支援し、沿岸漁業の経営モデルの確立を目指します。このために既存の支援体制による漁業経営改善や操業技術向上のための積極的な情報提供を行うとともに、新規漁業許可の発行など地域の担い手への優遇処置を推進します。

また、圏域の特産品である板ワカメの原料を供給するワカメ養殖については、省力化に実績のあるフリー配偶体技術\*の普及に加えて、種糸\*管理施設の集約化や新商品開発等の取組みを推進するとともに、新規着業者への支援を行います。

#### ④汽水域の環境保全と水産資源の維持再生

圏域には、全国有数の漁獲量を誇る宍道湖のほかに、神西湖や神戸川河口域にはシジミの生息に好適な汽水域の環境を有する漁場があります。これらの漁場環境を良好に保ち、シジミ資源を持続的に利用することを目指した取組みを推進します。

#### ⑤河川環境と水産資源の再生

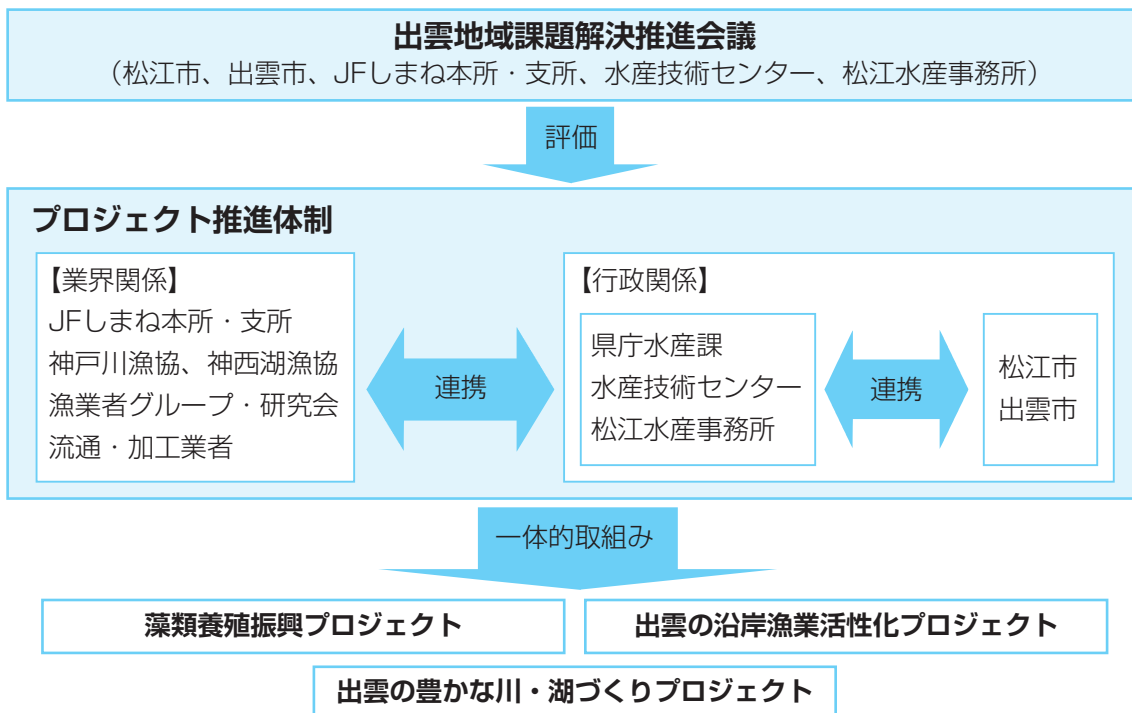
アユやシジミの資源回復や漁場環境保全の取組みを進め、内水面漁業を振興します。また、これら

の取り組みにあたっては、周辺住民も参加しやすい環境づくりを構築しながら、自然豊かな環境やそこから得られる漁獲物など内水面の恵みを地域全体で享受できることを目指します。

### (3) 主な指標の将来見通

項目		H22 → H27	備考
1 漁業生産	①漁業生産額（億円） （海面・内水面）	80 → 84	Ⅱ 消費者に好まれる商品づくり 水産物流通の改善と新たな加工形態の開発
	②基幹漁業生産額（億円） （沖底・小底・定置）	31 → 34	基幹漁業の構造改革
2 担い手の育成確保	①新規漁業就業者数（人）	4年間で16人 （年間4人程度）	Ⅲ 地域の実情にあった担い手づくり 担い手の育成・確保
	②シジミ生産額（億円） （宍道湖・神西湖）	25 → 25	Ⅳ 環境保全と多面的機能の維持増進 島根の海「第2県土」の資源回復と有効利用
3 環境保全	①海面漁業生産額（億円）	55 → 59	Ⅴ 環境保全と多面的機能の維持増進 島根の海「第2県土」の資源回復と有効利用
	②シジミ生産額（億円） （宍道湖・神西湖）	25 → 25	Ⅵ 汽水域の環境保全と水産資源の維持再生

### (4) 推進体制



### (5) 地域プロジェクト

- ① 出雲の沿岸漁業活性化プロジェクト
- ② 藻類養殖振興プロジェクト
- ③ 出雲の豊かな川・湖づくりプロジェクト

## 1 目的と取組

### 目的

出雲地域において沿岸漁業(定置網、釣・延縄・イカ釣など)は、地域全体の水揚げ金額の約半分を占めるなど、地域の各漁村を支える重要な漁業種類である。しかしながら、近年いずれの漁業種類とも漁獲量・金額において下降傾向にあり、厳しい漁業経営を余儀なくされている。漁業経営の安定化のためには、漁労経費の圧縮に加えて、漁獲物の付加価値向上や異なる漁業種類を組み合わせた複合経営により水揚げ金額の増加を図る必要がある。また、出雲地域では、「美保関産活けメさわら」や「大社縁結びぶり」など、魚価向上に一定の成果が見られる地域ブランド作りの成功例があるが、他の水産物や漁業種類を含めた圏域全体への売れる水産物づくりの取組み拡大は今後の課題である。さらに、近年の魚価低迷の背景として、地元水産物の認知度不足や若年層の魚離れ等が挙げられ、今後の魚食普及等の更なる推進が必要である。

そこで、本プロジェクトでは、出雲地域の沿岸漁業において、定置網漁業を核とした複合経営化と売れる水産物づくりの取組みを推進し、水揚げ金額の増加、漁業経営の安定化を図る一方で、地元水産物の消費拡大へ向けた取組みを推進することで沿岸漁業の活性化を目指す。

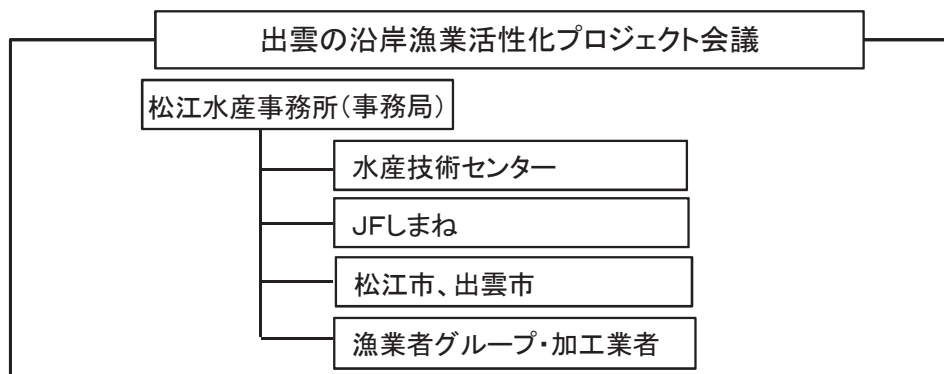
### 課題

- 水揚げ金額の低迷に起因する沿岸漁業の経営不振からの脱却
- 限定した魚種や漁業種類に留まっている地域ブランド作り
- 地元水産物の認知度不足と若年層を中心とした魚離れの解消

### 取組

- 定置網漁業を核とし、藻類養殖などと組み合わせた経営の複合化
  - ・ 定置網漁業の経営実態や複合経営化に関する要望等を把握したうえで、既存取組の拡大に加えて、着手可能な兼業種の新規導入を図る。
- 地域ブランド作りの取組み拡大
  - ・ 消費者ニーズを把握するとともに、取組むべき漁業種類・魚種を選定し、それぞれに必要な流通改善対策を検討したうえで取扱マニュアルを作成し、このマニュアルを活用した流通改善対策を実践する。
- 地元水産物の消費拡大対策
  - ・ 魚食普及等を通じた地元水産物の認知度向上対策および地元水産物を用いた加工品の開発を行う。
  - ・ 地元の学校給食や保育所給食での地元産魚介類の活用を推進する。

## 2 推進体制



### 関係・連携するプロジェクト

- 藻類養殖振興(東部)

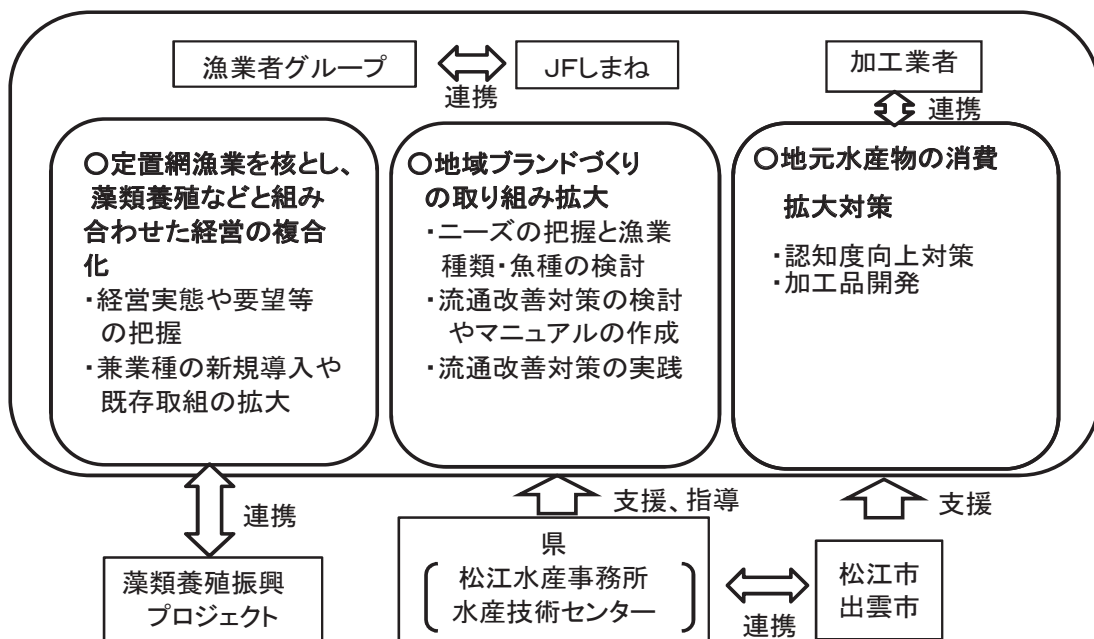
### 3 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	H24	H25	H26	H27
定置網漁業を核とし、藻類養殖などと組み合わせた経営の複合化	定置網漁業の経営実態や要望等の把握	JFしまね、漁業者、県	→			
	兼業種の新規導入や既存取組の拡大	JFしまね、漁業者、県、市				→
地域ブランド作りの取り組み拡大	消費者ニーズの把握と取組むべき漁業種類・魚種の検討	JFしまね、漁業者、県	→			
	流通改善対策の検討や取扱マニュアルの作成(実践を踏まえて適宜改正)	JFしまね、県				→
	取扱マニュアルを活用した流通改善対策の実践	JFしまね、県、市				→
地元水産物の消費拡大対策	魚食普及等を通じた地元水産物の認知度向上対策	JFしまね、県、市				→
	地元水産物を用いた加工品の開発	JFしまね、県、市、加工業者				→

### 4 成果指標 (数値目標)

項目	現況 (H22)	目標 (H27)
新たに複合経営に取り組む定置網経営体数	—	2経営体
地域ブランド作りへの取組み地区数	2地区	→ 4地区
加工品の開発数	—	→ 4品

### プロジェクトの概要



### 1 目的と取組

#### 目的

地域の特産品である「板ワカメ」の原料を主に供給するワカメ養殖は、時化が多い冬季の日本海でも行うことができる重要な漁業(養殖業)である。しかし、高齢化が進行するワカメ漁業者にとって種糸管理は重労働かつ煩雑であることや、後継者不足などにより、その養殖経営体数とともにその生産量は減少傾向にある。

前プロジェクト(H20～23年度)では、種糸管理の省力化とコスト削減等が期待できるフリー配偶体技術の普及に取り組んだ結果、同技術を導入した5地区の漁業者らは、管理作業の省力化等を実感出来たことや、従来式の養殖技術と遜色ない生産が出来たことなどの成果が得られた。

今後は、高齢化が進んでいるワカメ養殖業者にもできる種糸管理の効率化と、後継者の育成確保が課題である。

そこで、本プロジェクトでは引き続き同技術の普及に加え、種糸管理の集約化を図り、より効率的な種糸管理体制の確立を目指す。また、新規着業者に対しワカメ養殖業が安定した収入が見込める魅力ある漁業種類であることを提示しつつ、円滑にワカメ養殖業に参入できるよう養殖・加工技術の指導を行う。さらに、ワカメ養殖の収益性を高める取組みとして、ワカメ低利用部分の有効活用を含めた消費者ニーズにマッチした加工品開発やハバノリなどの有用海藻の養殖にも取組み、ワカメ養殖を中心とした地域の藻類養殖振興を総合的に推進する。

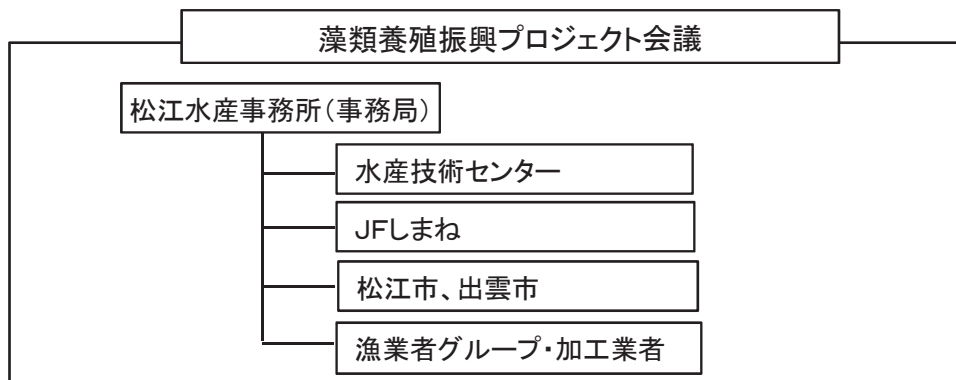
#### 課題

- フリー配偶体技術の管内全域への更なる普及
- ワカメ種糸管理の煩雑さの解消
- ワカメ養殖業の後継者対策
- ワカメ低利用部分の有効活用

#### 取組

- フリー配偶体技術の普及と有効活用
  - ・ワカメのフリー配偶体技術の普及に加えて、有用藻類(ハバノリ等)の試験養殖に取組み、養殖技術のマニュアル化を行う。
- 種糸管理施設の集約化
  - ・漁業者の意見を踏まえ、集約管理の候補地を選定し、選定した施設での種糸管理を実践する。
- 新規着業者支援
  - ・新規着業者が円滑にワカメ養殖業に参入できるように養殖・加工技術指導を行う。
- 付加価値向上対策
  - ・消費者ニーズの把握を行い、そのニーズにマッチした加工品開発を行う。

### 2 推進体制



#### 関係・連携するプロジェクト

- 出雲の沿岸漁業活性化(東部)

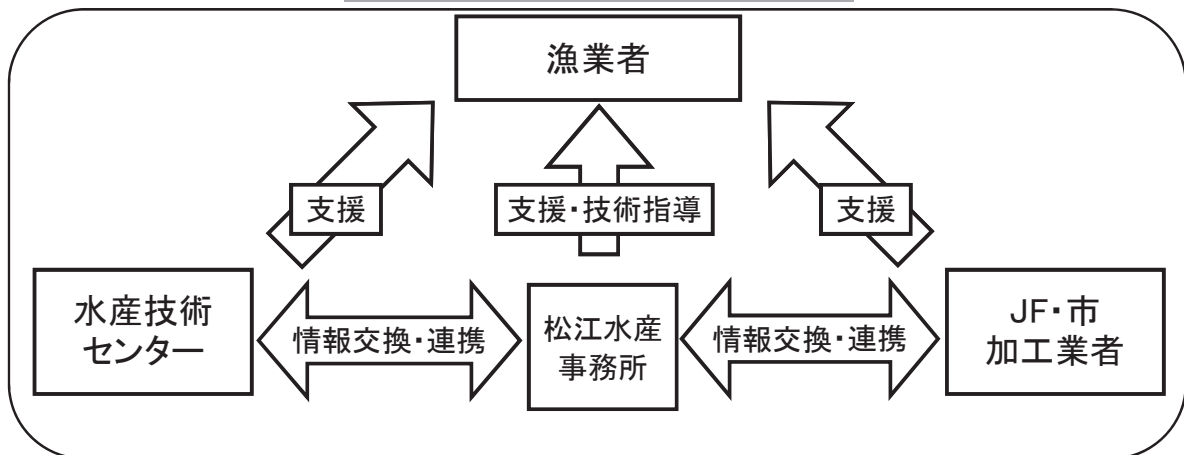
### 3 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動計画	主な実施主体	H24	H25	H26	H27
フリー配偶体技術の普及と有効活用	フリー配偶体技術の普及	漁業者、県	→	→	→	→
	有用藻類(ハバノリ等)の試験養殖		→	→	→	→
	有用藻類(ハバノリ等)の養殖技術のマニュアル化		→	→	→	→
種糸管理施設の集約化	集約管理の候補地選定	JFしまね、市、県	→	→	→	→
	選定した施設での種糸管理の実践		→	→	→	→
新規着業者支援	養殖・加工技術指導	JFしまね、漁業者、県	→	→	→	→
付加価値向上対策	消費者ニーズの把握	JFしまね、漁業者、県	→	→	→	→
	ニーズにマッチした加工品開発	加工業者、JFしまね、漁業者、県	→	→	→	→

### 4 成果指標 (数値目標)

項目	現況 (H22)	目標 (H27)
種糸管理施設数	10施設 →	7施設
ワカメ養殖業への新規着業者数	— →	7人

#### プロジェクトの概要





### 1 目的と取組

#### 目的

神戸川はかつて天然アユが多く遡上する豊かな河川環境を有していたが、河川改修や河川構築物の建設等の環境変化に伴い、アユの天然遡上量は激減している。一方、河口域においては、河川改修による川幅の拡大などでシジミ(ヤマトシジミ)の生息域が拡大し漁獲量は増えつつあるが、資源量等の知見が乏しく資源管理手法の確立には至っていない。

また、神西湖は宍道湖に次ぐシジミの産地であるが、漁場環境の悪化等により、その漁獲量は減少傾向にある。

このような状況を踏まえ、神戸川漁協と神西湖漁協では、かつての豊かな漁場や環境を取り戻そうとの機運が高まり、環境改善や有用資源の回復に向けた取り組みが開始されたところである。

そこで、本プロジェクトでは両漁協とともに、アユやシジミといった内水面の有用資源の回復を図るための施策を推進する。併せて、これらの取り組みに流域住民の参加を促しつつ、地域全体で内水面の有する美しい自然や豊かな恵みを楽しむことができる体制づくりを推進する。

#### 課題

(神戸川)

- 河川環境の悪化等により減少した天然アユ資源の回復
- 生息域が拡大しつつあるシジミの資源管理手法の確立
- 流域住民が川に親しむ意識の醸成

(神西湖)

- 減少傾向にあるシジミ資源の維持および増大
- 販売力強化によるシジミの単価向上

#### 取組

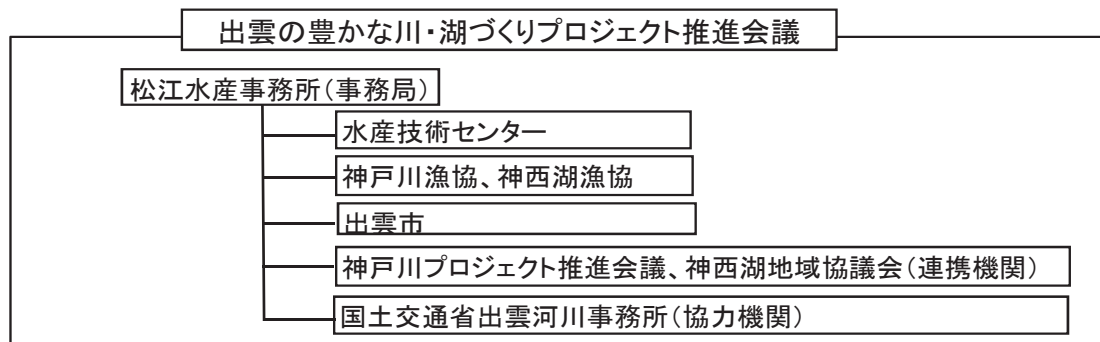
(神戸川)

- 天然アユの資源回復
  - ・ 産卵親魚の保護対策や産卵場整備の実施など天然アユ資源の回復を目指した取組を行い、これらの成果を科学的に検証したうえで資源回復計画を策定する。
- シジミの資源管理
  - ・ 資源量調査を実施し、調査結果に基づく資源管理計画を策定するとともに、天然採苗等による積極的な資源増加対策を行う。
- 流域住民が参加する川づくりの推進
  - ・ 流域住民参加による清掃活動や水辺の学習会開催および産直市開催等による川の幸認知度向上対策を行う。

(神西湖)

- シジミの資源回復
  - ・ 資源量調査を実施し、調査結果に基づく資源回復計画を策定するとともに、覆砂等による漁場面積の拡大などシジミ資源の維持増大を目指した取組を行う。
- 共同出荷体制による販売力強化
  - ・ 販売力強化を図るため、買受業者と連携した産地PR対策や産地偽装防止対策の検討・実践を行う。

### 2 推進体制



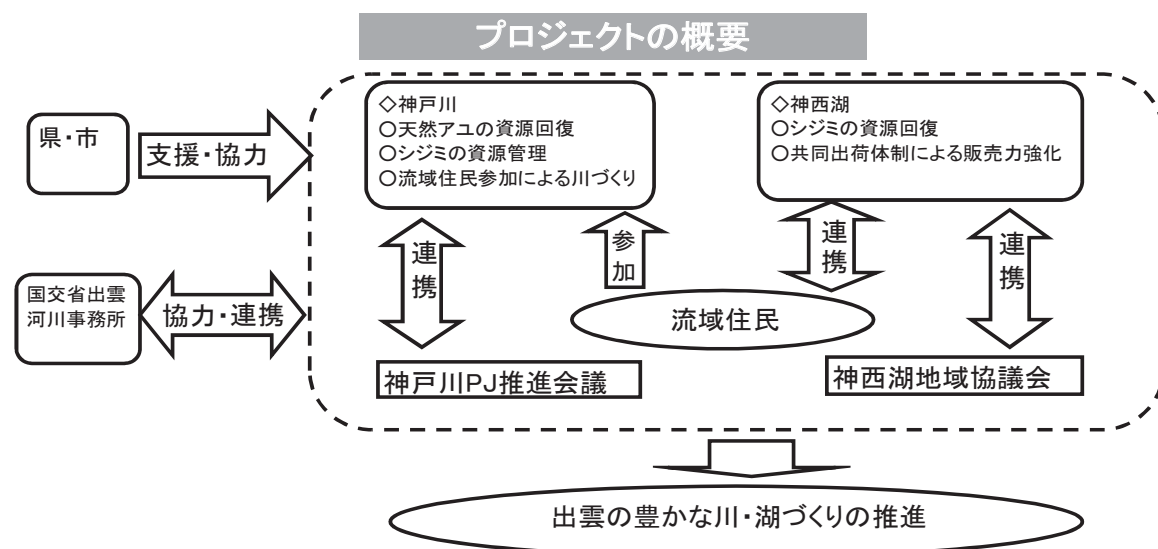
#### 関係・連携するプロジェクト

### 3 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動計画	主な実施主体	H24	H25	H26	H27
(神戸川) 天然アユの資源回復	産卵親魚の保護対策と産卵場整備の実施	漁協、県				→
	資源回復計画の策定	漁協、県				→
(神戸川) シジミの資源管理	資源量調査の実施	漁協、県				→
	天然採苗等による積極的な資源増加対策	漁協、県、市				→
	調査結果に基づく資源管理計画の策定	漁協、県				→
(神戸川) 流域住民が参加する川づくり	流域住民参加による清掃活動・水辺の学習会	漁協、県、市				→
	産直市開催等による川の幸認知度向上対策	漁協、県、市				→
(神西湖) シジミの資源回復	資源量調査の実施	漁協、県				→
	調査結果に基づく資源回復計画の策定	漁協、県				→
	覆砂等による漁場面積の拡大	漁協、県、市				→
(神西湖) 共同出荷体制による販売力強化	買受業者と連携した産地PR対策の検討・実践	漁協、県、市				→
	産地偽装防止対策の検討・実践	漁協、県、市				→

### 4 成果指標（数値目標）

項目	現況 (H22)	目標 (H27)
(神戸川)遊漁券発行枚数	335枚 →	500枚
(神戸川)アユ資源回復計画およびシジミ資源管理計画策定数	— →	2計画
(神西湖)シジミ漁獲量	101t →	250t



- 第1章
- 第2章
- 第3章
- 第4章
- 第5章
- (林業) 松江圏域
- (林業) 出雲圏域
- (林業) 雲南圏域
- (水産業) 東部地区
- (林業) 大田圏域
- (林業) 浜田圏域
- (林業) 益田圏域
- (水産業) 西部地区
- (林業) 隠岐圏域
- (水産業) 隠岐地区